

は、商用テレラジオロジーのみ

- 5) 地域の医療行政や地域連携協議会等での調整は立ち上がっていない。
- 6) 地域の病院間で実務的支援体制を組んだ事例では、運営が進んでいる。

1 2. 考察

1) 遠隔医療の研究水準

テレラジオロジーとテレパソロジー以外の遠隔医療は、臨床研究や運営管理の研究は進んでいない。先進的大学でも遠隔医療の推進策の開発途上であり、医局内展開できるだけでも国内の高度水準の研究と考えるべきである。安定的継続的実施の試行中でもあり、ガイドライン作成や一般的施設への展開まで至っていないと見受ける。

診療報酬があるテレラジオロジー、テレパソロジー以外では科研費研究を越えた継続でさえ先進的と考えられる。

遠隔医療が無ければ地域崩壊するような事例で、各施設事務方まで含めた地域連合を組んだ動きならば継続が可能である。地域連合を組んだ救急の取り組みも、最高水準と考えられる。

最高レベルの研究の水準を見れば、一般的施設による研究的取り組みは障壁が高い。多施設研究には、かなりブリミティブな研究支援が必要と考えられる。また直接に転用できるノウハウは少ないと考えられる。

2) 同科連携と異科連携について

これまで遠隔医療で非専門医師が専門医師の支援を受けられるとの言説が多かったが、実際の取り組みは少ない。異科連携を受け入れる現場意識があるか、異科の医師間でコミュニケーショ

ン（支援行為）が成立するか、などの基本的問題があることがわかった。異科連携では、現場側の非専門医師の正診率が高まらない等の課題の指摘もあった。指導能力以前に、正しい専門用語（診断名）の知識普及が難しいなど、基本的問題があるらしい。

他科との連携の調整も困難である。互いに業務が詰まっている診療科で、調整業務は負担が大きいと考えられる。調整負担の少ない連携（支援関係）構築手法が望まれる。同科連携、異科連携と研究を順々に進める努力が欠かせない。

3) 遠隔医療推進イニシアティブ

今回訪問した2大学、1施設は、ともに学長、院長の強いイニシアティブが発揮できる施設だった。トップダウンの強い推進力が欠かせないと考えられる。連携や組織間調整を、現場ボトムアップに任せては、実施が難しいと考えられる。

4) 運営への検討

今後の課題として、遠隔医療の日常診療への浸透で求められる事柄を考える必要がある。前述の通り、現在は専門性の高い医局単位で、丁寧に研究しているので、質の不安は少ない。しかし日常的運用、多施設での実施が可能な時期になれば、緊張感の緩い実施例も出現して、事故リスク等が高まる。今の質管理の水準は保てないし、今の手法ではリスク回避はできない。その時期に向けた準備を急ぐ必要性は高い。

13. まとめ

先進施設より在宅医療に活用できるノウハウは少なかった。この調査結果は、遠隔医療研究の次のステップに活用する。

D. 健康危険情報

無し

E. 研究発表

1. 論文発表

研究代表者報告に一括して報告する。

2. 学会発表

研究代表者報告に一括して報告する。

F. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

無し（非対象）

2. 実用新案登録

無し（非対象）

3. その他

無し（非対象）

参考文献

1. 長谷川高志. 遠隔医療提供体制に関する機能・形態評価案の検討、平成27年度本研究総括報告、2016.3

遠隔医療に関する地域行政の状況、訪問調査

研究協力者 長谷川 高志
群馬大学医学部附属病院

研究要旨

遠隔医療の臨床研究への課題抽出のため、各地域を調査したが、併せて行政（道、県）へのヒヤリングを行った。地域行政の中での遠隔医療は、まだ位置付けが固まっていない。医師不足・専門医の地域不均衡への支援策としての遠隔医療は理解されやすいが、地域包括ケアや在宅医療に於ける遠隔医療は、まだ検討の途上にある。本研究班の臨床研究でも、行政に期待する役割の明確化が重要となる。たとえエビデンスが得られても、地域行政の役割を明らかにしなければ、地域の各施設への支援が充足しない。

A. 研究目的

本研究は在宅患者向けの遠隔診療に関する社会的推進策を模索しており、推進に資する多施設臨床研究を目指している。地域行政による医療政策の動向は、

と、「施設調査課題」も荒削りのためである。調査項目に囚われすぎると、研究の客観性は向上するが、引き出せるかもしれない真の問題を捨てる危険も高い。まだ遠隔医療の研究は客観性を最上位に置けるほど手法が確立されていない。

（倫理面への配慮）

地域情報のみで、患者情報は全く扱わない。

B. 研究方法

1. 対象施設

下記5先進施設に訪問調査を行った。

- ① 北海道庁
- ② 岩手県庁
- ③ 茨城県庁
- ④ 和歌山県庁
- ⑤ 香川県庁

2. 調査項目

本研究の他報告に示した調査項目¹を用いて、対象施設関係者にヒヤリングを行った。ただし全項目ではなく、議論毎に項目は取捨選択した。項目自体が検討途上であること、対象の課題もバリエーションが高いこと、捉える目標が、やや曖昧ながら「ニーズの高そうな遠隔医療形態」を捉えるこ

C. 研究結果

1. 概況

いずれも医療政策関連部署を訪問した。調査形態は①ヒヤリングのみ、②遠隔医療概況講演とディスカッションの二通りである。②は今年度遠隔医療従事者研修事業²への当該県からの参加者よりの要請で進んだ取り組みである。

2. 対象・課題

1) 地域の専門医不足

- ① 地域医大からの若手医師派遣に伴う問題の緩和
- ② 地域の連携の構築

2) 地域医療ICT, 地域包括ケアの推進

3. 現状

- 1) 何から取り組めば良いか不明
- 2) 政策目標設定が困難
- 3) 実証事業の立ち上げ

4. 期待する事柄

- 1) ガイドライン（ドキュメント）
- 2) 遠隔医療の立ち上げ支援・指導
- 3) 診療報酬化（エビデンス作り）
- 4) 地域医療介護総合確保基金の事業立ち上げ支援

5. 考察

1) 専門医不足の緩和

医師不足が厳しい状況にある地域では、域内医大からの若手医師派遣に伴う問題の緩和に高い関心があった。若手医師に不足するスキルの補完や指導、若手医師が地域で孤立する一人医長問題、専門医資格取得への不利益の緩和への遠隔医療の活用への意識が高かった。その厳しさの前では、テレラジオロジー等の普及も在宅医療の普及も優先度を高められない。

2) 地域包括ケアの計画に関する問題
地域包括ケアの計画立案、地域医療構想など、新たな課題が多く、ICTを活かしたいと思いつつも、具体的な手法を見いだせないなどの悩みを多く見受けた。

3) 地域の課題としての遠隔医療

まだ扱い方が確定していないとの印象を受ける。遠隔医療と地域医療計画の関係など、位置付けの整理など基本的検討が十分でないし、検討する人が誰かも定まっていないと見受けた。

4) 連携支援の不足

5) 都道府県での専門医療不足等で、遠隔医療体制を構築する場合、専門医療が不足している施設からの要望だけでは、中々進まない。一方で提供施設も、「必要とする被支援施設」を探すことは難しい。地域全体のコーディネーションが必要と考えられる。しかし定常的な業務として立ち上がった都道府県は無い。本課題は都道府県だけでも動きにくく、市町村の医療行政や個々の施設も入った調整メカニズムが必要と考えられる。専門医療充足の一手段として、遠隔医療をコーディネーションする業務の検討と創設が望まれる。

6) サマリ

地域包括ケアの一環として在宅医療向けの遠隔医療への関心はあるが、行政の関与方法のモデルが無い。これまで取り組んでいる地域でも、手探り状態があると見受ける。臨床研究に加えて、地域毎の推進課題を併せて引き出すことも重要課題である。どれだけ臨床研究の成果がまとまっても、行政への期待事項を明らかにしなければ、各施設の個別努力に問題が矮小化する恐れがある。

D. 健康危険情報

無し

E. 研究発表

1. 論文発表

研究代表者報告に一括して報告する。

2. 学会発表

研究代表者報告に一括して報告する。

F. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

無し（非対象）

2. 実用新案登録

無し（非対象）

3. その他

無し（非対象）

参考文献

1. 長谷川高志. 遠隔医療提供体制に関する機能・形態評価案の検討、平成27年度本研究総括報告、2016.3
2. 長谷川高志、酒巻哲夫. 平成27年度厚生労働省事業 遠隔医療従事者研修報告. 日本遠隔医療学会スプリングカンファレンス抄録集. p. 39, 2016-02

遠隔医療研究文献調査に関する研究

研究協力者 長谷川 高志
群馬大学医学部附属病院

研究要旨

時根戸の多施設臨床研究のモデル選定にあたり、在宅患者へのテレビ電話診療の先行研究事例を探索すべく、文献調査を行った。対象は医学中央雑誌に採録された遠隔医療関連論文とした。多くの遠隔医療研究事例は見出したが、重症化予防や専門的支援に関する研究が多く、在宅患者の診療に関する研究は少なかった。本研究班の2010～2011年度研究が重要な先行事例であることが明らかになった。

A. 研究目的

遠隔医療の様々な研究が進んでいると考えられがちだが、実態調査は少なく実情は知られていない。数少ない従来調査¹では、情報通信に関するシステム技術研究が多く、臨床研究は少ないとの報告があり、臨床的に推進するには有利で無い状況が報告された。この時点で見いだされた大規模な臨床研究は在宅医療向けの後ろ向き研究、COPD患者へのテレナーシング、重度喘息であった。本年度厚生労働科学研究の臨床研究目標選定の中で研究実態情報は不可欠である。2010年度までの文献を対象とした前回調査を受けて、2011年度以降の研究情報の調査を行い、本研究内の他報告²で示されたニーズの実現性を評価した。

なお前回研究は「臨床研究の浸透状況の評価」を狙ったのに対して、今回研究は「ニーズ達成状況評価」を狙ったので、両研究結果の直接的な比較は行わない。

B. 研究方法

1. 調査対象

医学中央雑誌に掲載された論文から、「遠

隔医療、テレビ電話診療、IT医療」のいずれかのキーワードを持つ論文を対象とした。

2. 調査方法

医学中央雑誌から上記キーワードについて収集した論文の抄録等を精査して、下記の段階を通じれふるい分けた。

- ① 対象はヒト、日本国内か：海外エビデンスは、医療経済や社会保障上の評価が異なる対象とできない。
 - ② 症例報告や臨床研究か（対象疾患と診療方法を示しているか）
 - ③ 本研究の他報告でも扱った形態モデル8種のいずれに相当か分類した。
 - ④ 対象手法・疾病のキーワードを付加。
 - ⑤ キーワード等は、著者もしくは医学中央雑誌で割り振られないので、本研究内他報告と同様にKJ法的な繰り返し評価と振り分けを行い、結果を取りまとめた。
 - ⑥ モデル別に多数投稿者を洗い出した。2011年～2015年に2件以上を投稿した研究者は、継続的取り組みに従事している可能性が高いので、リスト化した。
- (3) 本研究の限界

8形態モデル³、疾病、診療手法の選択は自由記述から概念抽出した。そのため投稿者の意図を誤解するリスクがある。本概念化の作業に適切な分類手法が他に存在しないので、概念上のブレを許容することとした。ただし大幅な概念の取り違えは考えにくいので、「大まかな動向把握」として、本手法での研究実施は適切と考えた。

（倫理面への配慮）

介入行為は行わない。患者個人情報も扱わない。投稿者については、公開情報のみ利用している。他に何らかの個人情報侵害が起きないように十分注意する。

C. 研究結果

1. 全体の動向

表1-1に示す通り、年間300~400件の遠隔医療に関する投稿があった。その中で日本遠隔医療学会雑誌への掲載件数は平均で15%（10~20%で変動）となり、各臨床領域の専門誌への投稿が多かった。遠隔医療を扱う研究者が、各臨床系学会に広まっていることを示している。表1-2に全体の中で症例や臨床研究などを扱った投稿件数を示す。2011年には15%だったが、次第に件数・比率が上昇している。日本遠隔医療学会誌に掲載された症例、臨床手法の研究報告は、表1-3の通りに10%~20%で変動して、特定の傾向は見られない。日本遠隔医療学会が臨床研究の推進役としては1~2割をカバーしている。表1-4では日本遠隔医療学会誌に限って、症例等の報告比率を数えた。次第に増加しておる。

2. 形態モデルと疾病名（診療科）の動向

表2に示す通り、重症化予防、専門支援、]

健康指導、在宅医療、救急医療の順に投稿件数が高い。

多数投稿者がいる形態について個別に分析した。表3-2に救急を示す。脳血管疾患を対象と研究で複数グループが多数を投稿していた。投稿件数の多い循環器疾患は、多数投稿者はいなかった。脳血管疾患領域の多数投稿者を表3-2-1に示す。在宅医療についての多数投稿者は一般的在宅医療やリハビリ、褥瘡、難病などで該当した。一般的対象は本研究グループだけだった。専門的支援は胎児エコー、皮膚科、眼科、てんかんなどで多く、日本遠隔医療学会雑誌への投稿例も多かった。表3-5に示す重症化予防は、心臓ペースメーカーのモニタリング例が複数施設にまたがっていた。それ以外は特定疾病につき、特定グループが現れた。ここでは各臨床学会主導などの多施設研究例複数あり、研究水準の高さを示していた。健康指導系も複数グループの多数投稿者がいた（表3-6-1参照）。

3. 考察

（1）全体動向

研究デザインも立てやすく、目標も明確であり、対象を絞りやすい「重症化予防」、「専門的指導」が最も投稿件数が多かった。診療報酬がついている心臓ペースメーカーモニタリングなどである。専門的支援も件数も多く、胎児心エコー、皮膚科、眼科、てんかんでの投稿件数が多かった。

（2）在宅医療

多数投稿は本研究班の従来論文であった。その他は褥瘡、在宅患者への言語療法、神経難病などの特定対象となる。傾向として、単発の研究報告はあるが、長期にわたる、多施設の研究などは見受けられなかった。

つまり一般的な診察を遠隔で実施する事例で、まとまった研究は少ない。つまり遠隔診察の基礎的調査が進んでいるとは考えにくい。テレビ電話による一般的診療については、本研究班以上にまとまったデータを持つ研究グループが無い。

（3）専門支援

テレビ電話診療を行う事例もあるが、DttoD toPの形態のトライアルで、エビデンスを示した研究事例は無い。

（4）サマリー

テレビ電話を介した診療で、エビデンス水準の高い研究は無かった。特定の診療行為に関する加算などの診療報酬を提案する根拠情報が無いことを意味する。在宅医療でも何らかのガイドライン化できるようなエビデンスは無く、先行研究事例として参考になる研究は、本研究班の2010～2011年度の研究例だった。本研究の他報告で示したニーズ（在宅患者向け遠隔医療）に対する臨床研究は、本研究班の先行事例を土台として立案する必要がある。

なお、本研究で対象とした論文の一覧を表4に示す。

D. 健康危険情報

無し

E. 研究発表

1. 論文発表

研究代表者報告に一括して報告する。

2. 学会発表

研究代表者報告に一括して報告する。

F. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

無し（非対象）

2. 実用新案登録

無し（非対象）

3. その他

無し（非対象）

参考文献

1. 長谷川 高志, 酒巻 哲夫. 遠隔医療の研究動向の研究. 日本遠隔医療学会雑誌, 7(1), 52-56, 2011-07
2. 長谷川高志. 遠隔診療にニーズに関する研究－遠隔医療従事者研修参加者意識の調査に関する研究、平成27年度本研究総括報告、2016. 3
3. 長谷川高志. 遠隔医療提供体制に関する機能・形態評価案の検討、平成27年度本研究総括報告、2016. 3

厚生労働科学研究費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）
平成27年度 総括研究報告書

表 1-1 毎年の遠隔医療に関する論文投稿件数

	2011	2012	2013	2014	2015	2016	総計
日本遠隔医療学会雑誌以外	279	369	269	321	364	4	1606
日本遠隔医療学会雑誌	65	48	46	67	51		277
日本遠隔医療学会雑誌投稿件数の比	19%	12%	15%	17%	12%	0%	15%
総計	344	417	315	388	415	4	1883

表 1-2 診療手法に関する研究報告件数（システム等解説以外、症例研究や比較研究）

	2011	2012	2013	2014	2015	2016	総計
診療手法以外	295	359	253	312	287	3	1509
診療手法	49	58	62	76	128	1	374
診療手法の報告件数の比率	14%	14%	20%	20%	31%	25%	20%
総計	344	417	315	388	415	4	1883

表 1-3 診療手法の研究報告中、日本遠隔医療学会雑誌への掲載件数

	2011	2012	2013	2014	2015	2016	総計
日本遠隔医療学会雑誌以外	39	48	52	58	115	1	313
日本遠隔医療学会雑誌	10	10	10	18	13		61
日本遠隔医療学会雑誌投稿件数の比	20%	17%	16%	24%	10%	0%	16%

表 1-4 日本遠隔医療学会投稿件数、診療手法の報告件数比率

	2011	2012	2013	2014	2015	2016	総計
診療手法の研究報告の全件数	65	48	46	67	51	—	277
上記で日本遠隔医療学会雑誌に掲載された件数	10	10	10	18	13	—	61
日本遠隔医療学会雑誌投稿件数の比	15%	21%	22%	27%	25%	—	22%

医学中央雑誌 2011 年～2016 年 1 月 6 日採録分より

厚生労働科学研究費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）
平成27年度 総括研究報告書

表2 疾病別手法と遠隔医療形態（モデル）の対応の分布状況

モデル番号	モデル	1	2	3	4	5	6	7	8	総計
診療科分類	疾病等	専門的 診療支援	救急医療 支援	在宅医療、 一般診療 のDtoP	専門医 の支援、現 地研修 (同科支援)	慢性疾 患の重 症化予 防、モニ タリング	健康指 導・管理	地域プ ライマリ ケア支 援、地 域包括 ケア	非該当	
一般	一般	6	6	23	1	2	20	2	11	75
一般	リウマチ								1	1
一般	睡眠障害								1	1
一般	慢性疾患						4			4
一般	肥満						1			1
一般	頭痛				1					1
循環器	脳血管疾		24	2	1			1		29
循環器	高血圧						12			12
循環器	循環器、 心疾患	3	8		3	67	1			82
消化器	消化器疾		2							2
呼吸器	禁煙						1			1
呼吸器	COPD					12				12
呼吸器	SAS					7				7
呼吸器	呼吸器疾					6				6
糖尿病	糖尿病			1	1	11	2			15
腎・泌尿器	透析				2	1				3
腎・泌尿器	腎疾患			1						1
神経	てんかん				7					7
神経	神経内科				1					1
難病	難病			4					1	5
難病	神経難病			2						2
外科	悪性腫瘍	3		1	1				3	8
外科	臓器移植			1						1
救急	喉頭鏡		1							1
在宅	褥瘡			5					1	6
在宅	看取り							1		1
在宅	在宅 人工呼吸					1				1
在宅	在宅 腹膜透析			4						4
産科	妊婦健診						7			7
産科	産後尿失						3			3
産科	胎児健診	2			16					18
小児科	小児難病								1	1
小児科	小児腎疾						1			1
小児科	小児呼吸					5				5
小児科	新生児				2	1				3
小児科	小児循環				2					2
小児科	小児眼科				1					1
小児科	小児 リハビリ			1						1
小児科	小児		1							1
精神	精神科			1	1		1		1	4
精神	認知症			4					1	5
眼科	眼科			1	9					10
眼科	未熟児 網膜症				7					7
皮膚科	皮膚科	1			9			1		11
歯科	歯科	2			1	1				4
		17	42	51	66	114	53	5	21	374

厚生労働科学研究費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）
平成27年度 総括研究報告書

表 3-1 専門的診療支援

分類	件数	参考文献
一般	6	該当無し
悪性腫瘍	3	該当無し
循環器、心疾患	3	該当無し
歯科	2	該当無し
胎児健診	2	該当無し
皮膚科	1	該当無し

表 3-2 救急医療支援

分類	件数	参考文献
脳血管疾患	24	表3-2-1
循環器、心疾患	8	該当無し
一般	6	該当無し
消化器疾患	2	該当無し
喉頭鏡	1	該当無し
小児	1	該当無し

表 3-2-1 多数投稿者

対象	施設名	筆頭投稿者	合計件数	参考文献番号
脳血管疾患	徳島県立海部病院、徳島大学病院	田畑 良、小幡 史明、影治 照喜	14	1～14
脳血管疾患	川崎医科大学	藤井 修一、井口 保之	2	15～16
脳血管疾患	聖マリアンナ医科大学附属病院	伊佐早 健司、櫻井 謙三	2	17～18
脳血管疾患	阿蘇医療センター、熊本大学病院	本田 省二、甲斐 豊	2	19～20

表 3-3 在宅医療、一般の遠隔診療

分類	件数	参考文献
一般	23	表3-3-1
褥瘡	5	表3-3-1
在宅腹膜透析	4	該当無し
神経難病	4	表3-3-1
認知症	4	該当無し
脳血管疾患	2	該当無し
難病	2	該当無し

表 3-3-1 多数投稿者

対象	施設名	筆頭投稿者	合計件数	参考文献番号
一般(在宅一般)	厚労科研酒巻班	長谷川高志、郡隆之、松井英男	5	21～25
一般(言語療法)	愛知学院大学	早川 統子	5	26～30
褥瘡・創傷	国立病院長崎医療センター	村上 千佳子、藤岡 正樹	3	31～33
神経難病	信州大学病院	日根野 晃代、中村 昭則、滝沢正臣	3	34～36

厚生労働科学研究費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）
平成27年度 総括研究報告書

表 3-4 専門医による支援（D to D to P）、現地研修（同科支援）

分類	件数	参考文献
胎児エコー	16	表3-4-1
眼科	9	表3-4-1
皮膚科	9	表3-4-1
てんかん	7	表3-4-1
未熟児網膜症	7	表3-4-1
循環器、心疾患	3	該当無し
小児循環器	2	該当無し
新生児	2	該当無し
透析	2	該当無し

表 3-4-1 多数投稿者

対象	施設名	筆頭投稿者	合計件数	参考文献番号
胎児エコー	埼玉県立小児医療センター	菱谷 隆	6	37~42
胎児エコー	京都府立医科大学	藤澤 秀年	2	43~44
皮膚科	香川大学	森上 徹也	3	45~47
皮膚科	広島大学	横林 ひとみ、静川 寛	2	48~49
眼科	旭川医科大学	亀山 大希、花田 一臣、	8	50~57
てんかん	気仙沼市立病院、東北大学	神 一敬、中里 信和、成澤 あゆみ	6	58~63
未熟児網膜症	国立病院機構福山医療センター	高橋 伸方	4	64~67

表 3-5 慢性疾患の重症化予防、モニタリング

分類	件数	参考文献
循環器、心疾患	67	表3-5-1
COPD	12	表3-5-1
糖尿病	11	表3-5-1
SAS	7	表3-5-1
呼吸器疾患	6	表3-5-1
小児呼吸器	5	該当無し
一般	2	該当無し

表 3-5-1 多数投稿者

対象	施設名	筆頭投稿者	合計件数	参考文献番号
循環器・心疾患	佐賀大学	長友 大輔、琴岡 憲彦、	7	68~74
循環器・心疾患	プロフェッショナル・ドクターズ・ネット	二宮 淳一	3	75~77
循環器・心疾患	射水市民病院	加納 百合子、中井 章	2	78~79
循環器・心疾患	岡山大学	竹中 祐樹、伊藤 浩	2	80~81
循環器・心疾患	東京女子医科大学	西村 智美、真中 哲之	2	82~83
COPD	聖路加国際大学	亀井智子、山本由子	11	84~94
糖尿病	東京大学	脇 嘉代	3	95~97
呼吸器(喘息)	横浜市立みなと赤十字病院	遠藤 順治、中村 陽一	3	98~100
CPAP	長崎大学、井上病院	小澤 寛樹、吉嶺 裕之	2	101~102

厚生労働科学研究費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）
平成27年度 総括研究報告書

表 3-6 健康指導・管理

分類	件数	参考文献
一般	20	表3-6-1
高血圧	12	表3-6-1
妊婦健診	7	表3-6-1
慢性疾患	4	該当無し
産後尿失禁	3	該当無し
糖尿病	2	該当無し

3-6-1 多数投稿者

対象	施設名	筆頭投稿者	合計件数	参考文献番号
一般	独立行政法人 地域医療機能推進機構 埼玉メディカルセンター	本間 聡起	11	103~113
一般	旭川医科大学	作宮 洋子、林弘樹	3	114~116
高血圧	関西医科大学	木村 穰	2	117~118
高血圧	埼玉医科大学	菅野 龍、中元 秀友	3	119~121
妊婦健診	名瀬徳洲会病院、大船渡病院、亀田総合病院	藤山 レイ、小田切 幸平、小笠原敏浩	7	122~128

表3-7 イマリケア支援、地域包括ケア

分類	件数	参考文献
一般	2	該当無し
皮膚科	1	該当無し
脳血管疾患	1	該当無し
看取り	1	該当無し

表3-8 上記区分外

分類	件数	参考文献
一般	8	表3-8-1
悪性腫瘍	3	該当無し
精神科	1	該当無し
褥瘡	1	該当無し
難病	1	該当無し
認知症	1	該当無し
リウマチ	1	該当無し
小児難病	1	該当無し
睡眠障害	1	該当無し

表 3-8-1 多数投稿者

対象	施設名	筆頭投稿者	合計件数	参考文献番号
遠隔放射線治療	けいじゅりニアksesセンター	山口 健二、山下 勝	2	129~130
見守り	国立障害者リハビリテーションセンター	井上 剛伸	3	131~133

厚生労働科学研究費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）
平成27年度 総括研究報告書

参照番号	発行年	題目	著者	掲載誌	医学中央雑誌の投稿分類
1	2014	徳島県立海部病院の徳島大学病院による遠隔診断支援システムについて	田畑 良(徳島大学 大学院ヘルスバイオサイエンス研究部総合診療医学分野), 中西 嘉憲, 河南 真吾, 湯浅 志乃, 清水 伸彦, 山口 治隆, 河野 光宏, 谷 憲治, 山田 博胤, 西尾 進, 井口 明子, 小幡 史明, 坂東 弘康, 佐田 政隆	四国医学雑誌(0037-3699)69巻5-6 Page298(2013.12)	会議録
2	2015	医療過疎地域での急性期脳梗塞患者に対するdrip and ship”法の検討”	小幡 史明(那賀町国民健康保険木頭診療所), 田畑 良, 坂東 弘康, 影治 照喜, 岡 博文, 谷 憲治	四国医学雑誌(0037-3699)71巻1-2 Page47-48(2015.04)	会議録
3	2015	医療過疎地域での遠隔診療支援システムを用いた脳梗塞急性期医療	小幡 史明(那賀町国民健康保険木頭診療所), 影治 照喜, 岡 博文, 田畑 良, 谷 憲治, 坂東 弘康	四国医学雑誌(0037-3699)71巻3-4 Page71-76(2015.08)	原著論文
4	2014	地域中核病院でのスマートデバイスを用いた救急遠隔医療システム(K-support)の実践	小幡 史明(徳島県立海部病院), 浦岡 秀行, 三橋 乃梨子, 田畑 良, 濱口 隼人, 森 敬子, 坂東 弘康, 岡 博文, 影治 照輝	日本臨床救急医学会雑誌(1345-0581)17巻2号 Page254(2014.04)	会議録
5	2014	スマートデバイスを用いた遠隔画像診断システム(k-support)の有用性の検討	小幡 史明(徳島県立海部病院 総合診療科), 田畑 良, 森 敬子, 影治 照喜, 岡 博文, 坂東 弘康	日本内科学会雑誌(0021-5384)103巻Suppl. Page175(2014.02)	会議録
6	2014	当院における救急遠隔診療支援システム(k-support)30例の解析	小幡 史明(徳島県立海部病院 総合診療科), 田畑 良, 影治 照喜	日本遠隔医療学会雑誌(1880-800X)9巻2号 Page214-217(2013.10)	原著論文
7	2015	医療過疎地域における循環器領域での遠隔診療支援システムの有用性	小幡 史明(徳島県立海部病院 総合診療科), 田畑 良, 影治 照喜	日本遠隔医療学会雑誌(1880-800X)10巻2号 Page169-172(2014.09)	解説
8	2014	救急隊への海部病院遠隔診療支援システム(k-support)の導入 救命率向上を目指して	小幡 史明(徳島県立海部病院 総合診療科), 森 敬子, 坂東 弘康, 坂本 菜穂子, 原田 賢一, 森 雄一, 長谷 行恭, 田畑 良, 谷 憲治, 岡 博文, 影治 照喜	四国医学雑誌(0037-3699)70巻1-2 Page37-38(2014.04)	会議録
9	2015	遠隔画像診断治療補助システム(k-support)を用いてrt-PAを投与した急性期脳梗塞の1例 ドクターヘリ搬送によるdrip and ship”法の試み”	小幡 史明(徳島県立海部病院 総合診療科), 影治 照喜, 湯浅 志乃, 田畑 良, 森 敬子, 谷 憲治, 坂東 弘康	救急医学(0385-8162)38巻9号 Page1111-1114(2014.09)	原著論文/症例報告
10	2015	医療過疎地域における急性期脳梗塞患者に対するrt-PA静注療法	小幡 史明(徳島県立海部病院 総合診療科), 影治 照喜, 田畑 良, 長瀬 紗季, 生田 奈央, 森 敬子, 谷 憲治, 坂東 弘康	日本プライマリ・ケア連合学会誌(2185-2928)38巻1号 Page18-22(2015.03)	原著論文
11	2014	スマートフォンとインターネットを用いた徳島県立海部病院遠隔診療支援システム(k-support) 急性期脳卒中に対する早期診断・治療への貢献	影治 照喜(徳島大学病院 地域脳神経外科診療部), 小幡 史明, 田畑 良	日本遠隔医療学会雑誌(1880-800X)9巻2号 Page218-221(2013.10)	原著論文
12	2015	スマートデバイスとインターネットを用いた医療過疎地域での脳卒中支援システムの導入	影治 照喜(徳島大学病院 地域脳神経外科診療部), 岡 博文, 永廣 信治, 里見 淳一郎, 溝淵 佳史, 谷 憲治, 坂東 弘康, 小幡 史明, 三橋 乃梨子, 浦岡 秀行, 濱口 隼人	脳卒中(0912-0726)37巻2号 Page89-95(2015.03)	原著論文
13	2014	スマートフォンとインターネットを用いた徳島県立海部病院遠隔医療支援システム(k-support)の導入	影治 照喜(徳島大学病院 地域脳神経外科診療部), 岡 博文, 永廣 信治, 里見 淳一郎, 溝淵 佳史, 谷 憲治, 河野 光宏, 湯浅 志乃, 田畑 良, 坂東 弘康, 森 敬子, 小幡 史明, 三橋 乃梨子, 浦岡 秀行, 濱口 隼人	四国医学雑誌(0037-3699)69巻5-6 Page243-250(2013.12)	原著論文
14	2014	スマートフォンとインターネットを用いた海部病院遠隔医療支援システム(k-support)の導入	影治 照喜(徳島大学病院 地域脳神経外科診療部), 岡 博文, 永廣 信治, 里見 淳一郎, 溝淵 佳史, 谷 憲治, 河野 光宏, 湯浅 志乃, 田畑 良, 坂東 弘康, 高橋 幸志, 森 敬子, 小幡 史明, 三橋 乃梨子, 浦岡 秀行, 濱口 隼人	四国医学雑誌(0037-3699)69巻5-6 Page297-298(2013.12)	会議録
15	2011	Stroke Mobile Telemedicineによる脳卒中急性期医療	藤井 修一(川崎医科大学 脳卒中医学教室), 芝崎 謙作, 井口 保之, 山下 真史, 西林 尚祐, 鶴見 尚和, 長谷川 賢也, 木下 公久, 木村 和美	脳卒中(0912-0726)32巻5号 Page434-440(2010.09)	原著論文
16	2011	テレビ電話機能付き携帯端末を用いた遠隔診療支援システム(stroke mobile telemedicine:SMT)の臨床応用	井口 保之(川崎医科大学 脳卒中医学), 木村 和美, 立石 洋平, 寺澤 由佳, 林 浩嗣, 下山 隆, 泉 哲石, 平野 照之, 藤本 茂, 山村 修	脳卒中(0912-0726)33巻1号 Page1-8(2011.01)	原著論文/比較研究

厚生労働科学研究費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）
平成27年度 総括研究報告書

参照番号	発行年	題目	著者	掲載誌	医学中央雑誌の投稿分類	
17	2015	telestrokeの有効性 Hub-Spokeモデルでの経験例に基づいた検討	伊佐早 健司(聖マリアンナ医科大学附属病院 神経内科), 櫻井 謙三, 吉江 智秀, 今井 健, 徳山 承明, 加藤 貴之, 清水 高弘, 山田 浩史, 清水 眞, 長谷川 泰弘	臨床神経学(0009-918X)54巻Suppl. PageS28(2014.12)	会議録	
18	2013	双方向性ハイビジョンビデオ会議システムを介するNIH stroke scale評価とtelestroke利用の可能性	櫻井 謙三(聖マリアンナ医科大学 神経内科), 今井 健, 加藤 文太, 齊藤 智子, 伊佐早 健司, 堀内 正浩, 長谷川 泰弘	脳卒中(0912-0726)34巻6号Page414-420(2012.11)	原著論文	
19	2015	多施設間でのIT機器を用いた遠隔診断による急性期脳梗塞症例に対するdrip & ship法の試み	甲斐 豊(阿蘇医療センター 脳神経外科), 渡邊 聖樹, 倉津 純一, 安東 由喜雄, 平野 照之, 宇宿 功一郎	JNET: Journal of Neuroendovascular Therapy(1882-4072)8巻6号Page268(2014.12)	会議録	
20	2014	スマートフォンを用いた脳卒中遠隔医療態勢の構築阿蘇モデル	本田 省二(熊本大学 大学院生命科学研究部 神経内科学分野), 甲斐 豊, 平野 照之, 宇宿 功市郎, 渡邊 聖樹, 安東 由喜雄, 倉津 純一	脳卒中(0912-0726)36巻1号Page16-22(2014.01)	原著論文	
21	2013	遠隔診療の多施設研究について	長谷川 高志(群馬大学医学部附属病院), 酒巻 哲夫	日本遠隔医療学会雑誌(1880-800X)8巻1号Page29-33(2012.07)	解説	
22	2013	訪問診療における遠隔診療の効果に関する多施設前向き研究	長谷川 高志(群馬大学医学部附属病院 医療情報部), 郡 隆之, 齋藤 勇一郎, 酒巻 哲夫, 森田 浩之, 岡田 宏基, 柏木 賢治, 辻 正次, 石塚 達夫	日本遠隔医療学会雑誌(1880-800X)8巻2号Page205-208(2012.09)	原著論文/比較研究	比較研究
23	2014	遠隔医療を併用した訪問診療の安全性と有効性の評価に関する多施設前向き研究	郡 隆之(利根中央病院), 酒巻 哲夫, 長谷川 高志, 齋藤 勇一郎, 小笠原文雄, 太田 隆正	日本在宅医学会大会16回Page237(2014.03)	会議録	
24	2014	訪問診療における遠隔診療の事象発生、移動時間、QOLに関する症例比較多施設前向き研究	郡 隆之(利根中央病院), 酒巻 哲夫, 長谷川 高志, 岡田 宏基, 森田 浩之, 齋藤 勇一郎, 石塚 達夫, 辻 正次, 小笠原文雄, 太田 隆正	日本遠隔医療学会雑誌(1880-800X)9巻2号Page110-113(2013.10)	原著論文/比較研究	比較研究
25	2013	遠隔在宅診療の有用性に関する臨床試験	松井 英男(川崎高津診療所 診療部), 岡本 祐一, 嗣江 建栄	日本遠隔医療学会雑誌(1880-800X)8巻2号Page230-232(2012.09)	原著論文/比較研究	比較研究
26	2014	遠隔言語訓練による口蓋裂言語への言語訓練(第5報) 10症例の中間評価	早川 統子(愛知学院大学 心身科学部健康科学科), 井上 知佐子, 古川 博雄, 藤原 久美子, 夏目長門	日本口腔科学会雑誌(0029-0297)63巻1号Page127(2014.01)	会議録	
27	2015	Velo-Cardio-Facial症候群(VCF)患者の言語訓練での傾向とTelepractice実施の結果	早川 統子(愛知学院大学 心身科学部), 井村 英人, 夏目長門	小児口腔外科(0917-5261)24巻2号Page109(2014.10)	会議録	
28	2012	口蓋裂児への遠隔言語訓練システムに関する研究(第1報) 声門破裂音症例	早川 統子(愛知学院大学歯学部附属病院 口唇口蓋裂センター言語治療外来部門), 井上 知佐子, 藤原 久美子, 夏目長門	日本口腔科学会雑誌(0029-0297)60巻3号Page283(2011.07)	会議録	
29	2013	遠隔言語訓練による口蓋裂言語への言語訓練(第3報) 汎用にむけた予備的調査	早川 統子(愛知学院大学 心身科学部健康科学科), 井上 知佐子, 森 智子, 牧野 日和, 相原 喜子, 岩田 睦代, 名倉 知里, 竹内 朋也, 古川 博雄, 新美 照幸, 南 克浩, 藤原 久美子, 鈴木 聡, 井村 英人, 石川 拓, 加藤 大貴, 大野 磨弥, 森 明弘, 齋藤 直樹, 夏目長門	日本口蓋裂学会雑誌(0386-5185)38巻2号Page189(2013.04)	会議録	
30	2013	構音障害を呈する子どもへの遠隔言語訓練実施の試み	早川 統子(愛知学院大学 心身科学部健康科学科)	心身科学(1883-5724)5巻1号	会議録	
31	2011	創傷画像診察システムによって介護介入につながった離島在宅寝たきり患者の1例	村上 千佳子(国立病院長崎医療センター 外科), 藤岡 正樹, 増田 佳奈, 土居 華子	日本褥瘡学会誌(1345-0417)13巻3号Page421(2011.07)	会議録/症例報告	
32	2012	創傷画像診察システムによって介護介入につながった離島在宅寝たきり患者の1例	藤岡 正樹(国立病院機構長崎医療センター 形成外科・創傷センター), 林田 健志, 村上 知佳子, 古賀 康史	国立病院総合医学会講演抄録集65回Page616(2011.10)	会議録/症例報告	

厚生労働科学研究費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）
平成27年度 総括研究報告書

参照番号	発行年	題目	著者	掲載誌	医学中央雑誌の投稿分類	
33	2012	褥瘡患者に早期に医療介入するためのE-mailを利用した「創傷画像送信診察システム」の構築とその成果	藤岡 正樹(国立病院機構長崎医療センター 形成外科), 林田 健志, 村上 知佳子, 古賀 康史	国立病院総合医学会講演抄録集65回 Page616(2011.10)	会議録	
34	2014	在宅難病患者家族への総合在宅遠隔医療システムの開発	滝沢 正臣(信州大学医学部附属病院), 中村 昭則, 武井 洋一, 大原 慎司	日本遠隔医療学会雑誌 (1880-800X)9巻2号 Page74-78(2013.10)	原著論文	
35	2014	神経難病患者におけるモバイル端末を用いた在宅チームケアシステムの有用性	日根野 晃代(信州大学 医学部脳神経内科リウマチ・膠原病内科), 中村 昭則, 宮崎 大吾, 滝沢 正臣	日本遠隔医療学会雑誌 (1880-800X)9巻2号 Page145-147(2013.10)	原著論文	
36	2014	【神経難病とリハビリテーション】神経難病に対する診断,治療,および在宅療養支援	中村 昭則(信州大学医学部附属病院 難病診療センター), 吉田 邦広	総合リハビリテーション (0386-9822)42巻6号 Page497-505(2014.06)	解説/ 特集	
37	2011	小児医療センターを中心とした胎児遠隔診断システム	菱谷 隆(埼玉県立小児医療センター 循環器科), 小川 潔, 星野 健司, 菅本 健司, 伊藤 裕司, 飯島 正紀	埼玉県医学会雑誌(0389-0899)45巻1号 Page113-117(2010.11)	解説	
38	2011	埼玉県東部の胎児遠隔診断システムの構築(第2報)	菱谷 隆(埼玉県立小児医療センター 循環器科)	日本遠隔医療学会雑誌 (1880-800X)6巻2号 Page190-191(2010.09)	原著論文	
39	2011	当院の取り組み 超音波を用いた胎児遠隔診断で生まれる前に病気を診断! 地域の周産期医療の向上をめざして	菱谷 隆(埼玉県立小児医療センター 循環器科)	全国自治体病院協議会雑誌(0389-1070)50巻8号 Page14-20(2011.08)	解説	
40	2013	埼玉県東部の胎児遠隔診断システムの構築(第3報)産科施設との医療連携へ及ぼした効果	菱谷 隆(埼玉県立小児医療センター 循環器科)	日本遠隔医療学会雑誌 (1880-800X)8巻2号 Page116-118(2012.09)	原著論文	
41	2013	ICTを活用した地域連携 埼玉県東部のICTを用いた胎児超音波遠隔診断システム 産科施設との医療連携	菱谷 隆(埼玉県立小児医療センター 循環器科)	日本医療マネジメント学会雑誌(1881-2503)14巻Suppl. Page157(2013.06)	会議録	
42	2013	ICTを活用した胎児超音波遠隔診断システム	菱谷 隆(埼玉県立小児医療センター 循環器科)	日本周産期・新生児医学会雑誌(1348-964X)49巻2号 Page659(2013.06)	会議録	
43	2013	デジタルネットワーク経由のSTICを用いた胎児遠隔診断支援システムにおける胎児心疾患の診断	藤澤 秀年(京都府立医科大学), 藁谷 深洋子, 安尾 忠浩, 岩佐 弘一, 岩破 一博, 北脇 城	日本産科婦人科学会雑誌 (0300-9165)65巻2号 Page793(2013.02)	会議録	
44	2012	胎児遠隔診断支援システムにおけるSTIC利用の心疾患診断の実戦的工夫	藤澤 秀年(京都府立医科大学 大学院女性生涯医学), 大久保 智治, 藁谷 深洋子, 安尾 忠浩, 岩破 一博, 北脇 城	日本周産期・新生児医学会雑誌(1348-964X)48巻2号 Page441(2012.06)	会議録	
45	2012	遠隔診療支援システム「K-MIX」を使った、香川県におけるテレダーマトロジーの試み	森上 徹也(香川大学), 中井 浩三, 横井 郁美, 森上 純子, 宗廣 明日香, 前田 麗子, 細川 洋一郎, 石川 絵美子, 米田 耕造, 窪田 泰夫, 山肩 大祐, 横井 英人	西日本皮膚科(0386-9784)73巻5号 Page545-546(2011.10)	会議録	
46	2012	遠隔診療支援システム「K-MIX」を使った香川県におけるテレダーマトロジーの試み	森上 徹也(香川大学 医学部皮膚科学教室)	医薬の門(0579-2762)51巻4号 Page384-386(2011.09)	解説	
47	2011	遠隔診療支援システム「K-MIX」を使った、香川県におけるテレダーマトロジーの試み	森上 徹也(香川大学 医学部皮膚科), 森上 純子, 中井 浩三, 横井 郁美, 宗廣 明日香, 山肩 大祐, 米田 耕造, 横井 英人, 窪田 泰夫	日本皮膚科学会雑誌(0021-499X)121巻3号 Page629(2011.03)	会議録	
48	2014	インターネットを用いた僻地・在宅における遠隔皮膚診療の試み	横林 ひとみ(広島大学), 三原 祥嗣, 秀道広, 横林 賢一, 原田 亘, 東條 環樹, 小西 太, 静川 寛子, 森田 健司	西日本皮膚科(0386-9784)75巻6号 Page551(2013.12)	会議録	

厚生労働科学研究費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）
平成27年度 総括研究報告書

参照番号	発行年	題目	著者	掲載誌	医学中央雑誌の 投稿分類
49	2015	遠隔皮膚診療で経験した31症例のまとめ	静川 寛子(広島大学), 横林 ひとみ, 秀 道広, 横林 賢一, 原田 亘, 東條 環樹, 小西 太, 三原 祥嗣, 森田 健司	西日本皮膚科(0386-9784)76巻6号 Page625-626(2014.12)	会議録
50	2012	退院患者の遠隔フォローアップシステムの研究	亀山 大希(旭川医科大学 眼科学教室), 守屋 潔, 三上 大季, 石子 智士, 木ノ内 玲子, 花田 一臣, 吉田 晃敏	日本遠隔医療学会雑誌(1880-800X)7巻2号 Page191-194(2011.10)	原著論文
51	2012	眼疾患における遠隔医療システムの有用性	山口 亨(旭川医科大学), 守屋 潔, 石子 智士, 木ノ内 玲子, 花田 一臣, 吉田 晃敏	日本遠隔医療学会雑誌(1880-800X)7巻2号 Page216-218(2011.10)	原著論文
52	2014	遠隔医療システムを活用した眼科術後管理の有用性	山口 亨(旭川医科大学 眼科学講座), 石子 智士, 木ノ内 玲子, 花田 一臣, 守屋 潔, 吉田 晃敏	日本遠隔医療学会雑誌(1880-800X)9巻1号 Page33-38(2013.05)	原著論文
53	2014	遠隔医療支援システムを活用した眼科遠隔医療の運用実績	花田 一臣(旭川医科大学 医工連携総研講座), 石子 智士, 守屋 潔, 木ノ内 玲子, 三上 大季, 山口 亨, 吉田 晃敏	日本遠隔医療学会雑誌(1880-800X)9巻2号 Page125-128(2013.10)	原著論文
54	2014	【遠隔医療を推進する旭川医科大学の取り組み】 遠隔相談システムを活用した医療支援	花田 一臣(旭川医科大学 医工連携総研講座), 石子 智士, 守屋 潔, 木ノ内 玲子, 林 弘樹, 三上 大季, 山口 亨, 吉田 晃敏	日本遠隔医療学会雑誌(1880-800X)10巻1号 Page8-11(2014.05)	解説/ 特集
55	2014	【遠隔医療を推進する旭川医科大学の取り組み】 術後退院患者の遠隔フォローアップシステム	山口 亨(旭川医科大学 眼科学講座), 石子 智士, 木ノ内 玲子, 花田 一臣, 守屋 潔, 林 弘樹, 三上 大季, 吉田 晃敏	日本遠隔医療学会雑誌(1880-800X)10巻1号 Page12-15(2014.05)	解説/ 特集
56	2015	旭川医科大学が行う眼疾患に対する緊急遠隔医療支援	花田 一臣(旭川医科大学 医工連携総研講座), 石子 智士, 守屋 潔, 木ノ内 玲子, 三上 大季, 山口 亨, 吉田 晃敏	日本遠隔医療学会雑誌(1880-800X)10巻2号 Page145-148(2014.09)	原著論文
57	2015	地方病院における眼科遠隔医療システムの有用性	山口 亨(遠軽厚生病院 眼科), 石子 智士, 守屋 潔, 木ノ内 玲子, 花田 一臣, 三上 大季, 吉田 晃敏	日本遠隔医療学会雑誌(1880-800X)10巻2号 Page149-151(2014.09)	原著論文
58	2013	テレビ会議システムを用いた遠隔てんかん専門外来の試み(第一報)	神 一敬(東北大学 大学院てんかん学分野), 成田 徳雄, 板橋 尚, 加藤 量広, 岩崎 真樹, 中里 信和	てんかん研究(0912-0890)30巻2号 Page408(2012.09)	会議録/ 症例報告
59	2013	テレビ会議システムで東日本大震災の被災地を結んだ遠隔てんかん外来	中里 信和(東北大学 大学院てんかん学分野), 神 一敬, 成田 徳雄	日本遠隔医療学会雑誌(1880-800X)8巻2号 Page137-138(2012.09)	原著論文
60	2014	テレビ会議システムによる遠隔てんかん外来	成澤 あゆみ(気仙沼市立病院 脳神経外科), 成田 徳雄, 富永 悌二, 岩崎 真樹, 神 一敬, 中里 信和	脳神経外科ジャーナル(0917-950X)23巻2号 Page136-141(2014.02)	原著論文
61	2013	テレビ会議システムを用いた遠隔てんかん専門外来の試み(第一報)	神 一敬(東北大学 大学院てんかん学分野), 成田 徳雄, 板橋 尚, 加藤 量広, 岩崎 真樹, 中里 信和	てんかん研究(0912-0890)30巻2号 Page408(2012.09)	会議録/ 症例報告
62	2013	テレビ会議システムで東日本大震災の被災地を結んだ遠隔てんかん外来	中里 信和(東北大学 大学院てんかん学分野), 神 一敬, 成田 徳雄	日本遠隔医療学会雑誌(1880-800X)8巻2号 Page137-138(2012.09)	原著論文
63	2014	テレビ会議システムによる遠隔てんかん外来	成澤 あゆみ(気仙沼市立病院 脳神経外科), 成田 徳雄, 富永 悌二, 岩崎 真樹, 神 一敬, 中里 信和	脳神経外科ジャーナル(0917-950X)23巻2号 Page136-141(2014.02)	原著論文
64	2012	眼底デジタルカメラを用いた未熟児網膜症の遠隔診療	高橋 伸方(国立病院機構福山医療センター)	日本遠隔医療学会雑誌(1880-800X)7巻2号 Page214-215(2011.10)	原著論文

厚生労働科学研究費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）
平成27年度 総括研究報告書

参照番号	発行年	題目	著者	掲載誌	医学中央雑誌の投稿分類	
65	2012	未熟児網膜症ケア NICU増床にどう対応するか 新生児科医師によるROP診療telemedicine	高橋 伸方(国立病院機構福山医療センター)	眼科臨床紀要(1882-5176)5巻5号 Page467(2012.05)	会議録	
66	2012	RetCamを用いた未熟児網膜症の遠隔管理(第4報) 5年間の診療のまとめ	高橋 伸方(国立病院機構福山医療センター 小児科), 小笠原 宏, 坂本 朋子, 北田 邦美, 野島 郁子, 荒木 徹	日本未熟児新生児学会雑誌(1347-8540)23巻3号 Page665(2011.10)	会議録	
67	2011	眼底デジタルカメラを用いた未熟児網膜症の遠隔診療の現状と問題点	高橋 伸方(国立病院機構福山医療センター 小児科), 坂本 朋子, 高杉 瑞恵, 細木 瑞穂, 和田 智頭, 野島 郁子, 荒木 徹, 池田 政憲	広島医学(0367-5904)64巻1号 Page49(2011.01)	会議録	
68	2013	在宅・遠隔モニタリングの最先端 心不全のICTを用いた遠隔モニタリング(HOMES-HF)	野出 孝一(佐賀大学 医学部循環器内科)	臨床モニター(0915-6976)24巻Suppl. Page49(2013.04)	会議録	
69	2011	高齢者における心不全在宅医療の推進に関する研究	野出 孝一(佐賀大学 医学部循環器・腎臓内科), 琴岡 憲彦	大和証券ヘルス財団研究業績集34号 Page145-150(2011.03)	解説	
70	2014	慢性心不全の在宅管理における遠隔モニタリングデバイスの長期的有効性について	長友 大輔(佐賀大学 医学部循環器・腎臓内科), 琴岡 憲彦, 兒玉 和久, 浅香 真知子, 佐久間 理史, 野出 孝一	日本心臓病学会誌(1882-4501)8巻Suppl.I Page490(2013.09)	会議録	
71	2014	慢性心不全診療における遠隔モニタリングの役割 多職種協働とPerson-Centered Care	琴岡 憲彦(佐賀大学医学部附属病院 循環器内科・先端心臓病学講座)	日本循環器看護学会誌(1880-537X)9巻2号 Page28-29(2014.02)	解説	
72	2014	高齢者心不全治療の現状と展望 高齢者の慢性心不全在宅管理における遠隔モニタリングの可能性(HOMES-HF)	琴岡 憲彦(佐賀大学 医学部循環器内科), 西山 愛, 森田 喜久美, 長友 大輔, 浅香 真知子, 野出 孝一	日本心臓病学会誌(1882-4501)8巻Suppl.I Page154(2013.09)	会議録	
73	2012	ネットワークを用いた循環器診療 慢性心不全の在宅管理における遠隔モニタリングの可能性	琴岡 憲彦(佐賀大学 医学部循環器内科)	日本心臓病学会誌(1882-4501)7巻Suppl.I Page149(2012.08)	会議録	
74	2015	【心不全のチーム医療】識る 遠隔モニタリングの最新事情	琴岡 憲彦(佐賀大学 医学部循環器内科)	Heart View(1342-6591)19巻1号 Page44-47(2015.01)	解説/ 特集	
75	2011	ネット相談システムとしてのカラダのみはり番ネット”の有効性と今後の課題”	二宮 淳一(プロフェッショナル・ドクターズ・ネット), 桑木 綱一, 萬理小路 直樹	日本遠隔医療学会雑誌(1880-800X)6巻2号 Page247-249(2010.09)	解説	
76	2013	インターネットを介したリアルタイム運動負荷試験の検討	二宮 淳一(プロフェッショナル・ドクターズ・ネット), 桑木 綱一, 内浦 玉堂	日本遠隔医療学会雑誌(1880-800X)8巻2号 Page220-222(2012.09)	原著論文	
77	2012	インターネットによるリアルタイム運動負荷試験の評価	二宮 淳一(プロフェッショナル・ドクターズ・ネット 健康医療部門臨床医学科), 桑木 綱一, 内浦 玉堂	医療機器学(1882-4978)82巻2号 Page174(2012.04)	会議録	
78	2015	先進的遠隔管理システムによる在宅重症心不全患者の再入院予防	中井 章子(射水市民病院 多職種心不全患者支援チーム(SYMPAT)), 大永 佳子, 水戸 伊希子, 星野 智美, 西野 一美, 杉谷 清美, 風巻 麻美, 高川 順也, 麻野井 英次	地域医療(0289-9752)第54回特集号 Page1297-1300(2015.03)	会議録	
79	2012	先進的ICTモニタリングシステムを用いた多職種支援チームによる心不全患者の遠隔管理	加納 百合子(射水市民病院 心臓血管センター), 麻野井 英次, 中川 圭子, 高川 順也, 椎名 道子, 中井 章子, 吉崎 めぐみ, 大永 佳子, 西野 崇乃, 水戸 伊希子, 星野 智美, 藤岡 ひろみ, 風巻 麻美, 西野 一美, 杉谷 清美, 中村 大輔	日本心臓病学会誌(1882-4501)7巻Suppl.I Page370(2012.08)	会議録	
80	2013	遠隔モニタリングシステムを併用したフォローアップにも関わらず、リードインピーダンス上昇の発見が遅延した1例	竹中 祐樹(岡山大学 循環器内科先端循環器治療学講座), 森田 宏, 三好 亨, 西井 伸洋, 久保 元基, 伊藤 浩	Journal of Arrhythmia(1880-4276)28巻Suppl. Page430(2012.05)	会議録/ 症例報告	

厚生労働科学研究費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）
平成27年度 総括研究報告書

参照番号	発行年	題目	著者	掲載誌	医学中央雑誌の投稿分類	
81	2014	ネットワークを用いた循環器診療	伊藤 浩(岡山大学 大学院医歯薬学総合研究科 循環器内科学)	心臓(0586-4488)45巻9号 Page1199-1202(2013.09)	解説	
82	2015	先天性心疾患に対するICD/CRTD植え込み 作動状況および遠隔モニタリング導入による変化	西村 智美(東京女子医科大学 循環器小児科), 竹内 大二, 真中 哲之, 豊原 啓子, 庄田 守男, 中西 敏雄	日本小児循環器学会雑誌 (0911-1794)30巻Suppl. Pages204(2014.06)	会議録	
83	2016	ペーシングデバイスの遠隔モニタリングによるユビキタス循環器診療	真中 哲之(東京女子医科大学 循環器内科), 庄田 守男, 萩原 誠久	日本成人先天性心疾患学会雑誌4巻1号 Page81(2015.01)	会議録	
84	2011	テレナーシング看護モニターセンターにおける在宅HOT患者のテレナーシング時間と内容の検証 ランダム化比較試験介入群12例の報告から	山本 由子(聖路加看護大学), 亀井 智子, 梶井 文子, 中山 優季	日本遠隔医療学会雑誌 (1880-800X)6巻2号 Page136-138(2010.09)	原著論文/ランダム化比較試験	比較研究
85	2012	COPD HOT患者の在宅モニタリングに基づくテレナーシングの急性増悪とQOL改善効果 ランダム化比較試験	亀井 智子(聖路加看護大学), 山本 由子, 中山 優季, 蝶名林 直彦, 西村 直樹, 辻 洋介	日本呼吸ケア・リハビリテーション学会誌(1881-7319)21巻Suppl. Page224s(2011.10)	会議録	
86	2015	COPD在宅酸素療法患者を対象としたテレナーシングとガイドライン開発	亀井 智子(聖路加看護大学), 山本 由子, 中山 優季, 蝶名林 直彦	日本呼吸ケア・リハビリテーション学会誌(1881-7319)24巻3号 Page362(2014.12)	会議録	
87	2014	COPD HOT患者のためのテレナーシング実践ガイドラインの開発	亀井 智子(聖路加看護大学), 山本 由子, 中山 優季	日本呼吸ケア・リハビリテーション学会誌(1881-7319)23巻Suppl. Page130s(2013.09)	会議録	
88	2011	慢性閉塞性肺疾患(COPD)で在宅酸素療法(HOT)を受ける患者に対するテレナーシング実践の費用対効果の検討	亀井 智子(聖路加看護大学), 山本 由子, 梶井 文子, 中山 優季, 亀井 延明, 辻 洋介, 穴田 幸雄, 相羽 大輔, 屋間 国夫	日本遠隔医療学会雑誌 (1880-800X)6巻2号 Page133-135(2010.09)	原著論文/ランダム化比較試験	比較研究
89	2012	COPD IV期の在宅酸素療法患者を対象としたテレナーシング実践 トリガーポイントによる在宅モニタリングデータの検討	亀井 智子(聖路加看護大学), 山本 由子, 梶井 文子, 中山 優季, 亀井 延明, 穴田 幸雄, 辻 洋介, 相羽 大輔	日本遠隔医療学会雑誌 (1880-800X)7巻2号 Page179-182(2011.10)	原著論文/比較研究	比較研究
90	2011	COPD在宅酸素療法実施者への在宅モニタリングに基づくテレナーシング実践の急性増悪および再入院予防効果 ランダム化比較試験による看護技術評価	亀井 智子(聖路加看護大学), 山本 由子, 梶井 文子, 中山 優季, 亀井 延明	日本看護科学会誌(0287-5330)31巻2号 Page24-33(2011.06)	原著論文/ランダム化比較試験	比較研究
91	2013	ICTを活用した地域連携 在宅慢性呼吸不全患者のためのテレナーシングの実践的導入とガイドライン作成	亀井 智子(聖路加看護大学)	日本医療マネジメント学会雑誌(1881-2503)14巻Suppl. Page158(2013.06)	会議録	
92	2013	老年学における新たな展開 注目される最近の動き 高齢者看護の新たな展開 高齢在宅療養者へのテレナーシングの活用と効果	亀井 智子(聖路加看護大学)	日本老年医学会雑誌(0300-9173)50巻Suppl. Page5(2013.05)	会議録	
93	2015	慢性閉塞性肺疾患患者のテレホーム・モニタリングによるテレナーシングに関する研究のシステマティックレビューとメタ分析(Systematic review and meta-analysis of studies involving telehome monitoring-based telenursing for patients with chronic obstructive pulmonary disease)(英語)	Kamei Tomoko(St Luke's College of Nursing, Gerontological Nursing), Yamamoto Yuko, Kajii Fumiko, Nakayama Yuki, Kawakami Chiharu	Japan Journal of Nursing Science(1742-7932)10巻2号 Page180-192(2013.12)	原著論文/メタアナリシス	
94	2015	将来の在宅ケアのための情報・通信技術(Information and communication technology for home care in the future)(英語)	Kamei Tomoko(St Luke's College of Nursing, Gerontological Nursing)	Japan Journal of Nursing Science(1742-7932)10巻2号 Page154-161(2013.12)	総説	
95	2013	ICTを利用した2型糖尿病患者の自己管理支援システム-DialBetics	脇 嘉代(東京大学 大学院医学系研究科健康空間情報学講座), 藤田 英雄, 内村 祐之, 荒牧 英治, 大前 浩司, 門脇 孝, 大江 和彦	医療情報学連合大会論文集(1347-8508)32回 Page534-537(2012.11)	会議録	
96	2015	【糖尿病診療におけるICT(Information and Communication Technology)活用術】 糖尿病自己管理教育におけるITの活用 モバイルICTによる糖尿病管理システムの構築 スマートフォンを活用した2型糖尿病患者の自己管理支援システム DialBetics	脇 嘉代(東京大学 大学院医学系研究科健康空間情報学講座)	糖尿病診療マスター(1347-8176)13巻7号 Page543-547(2015.07)	解説/特集	

厚生労働科学研究費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）
平成27年度 総括研究報告書

参照番号	発行年	題目	著者	掲載誌	医学中央雑誌の投稿分類
97	2013	ICTを利用した2型糖尿病患者の自己管理支援システム-DialBetics	脇 嘉代(東京大学 大学院医学系研究科), 内村 祐之, 荒牧 英治, 大前 浩司, 早川 雅代, 藤田 英雄, 門脇 孝, 大江 和彦	医療情報学連合大会論文集(1347-8508)31回 Page717-718(2011.11)	会議録
98	2011	テレメディスンによる喘息管理	中村 陽一(横浜市立みなと赤十字病院 アレルギーセンター)	呼吸器内科(1884-2887)18巻2号 Page163-169(2010.08)	解説
99	2011	成人喘息長期管理におけるテレメディスンの試み(第4報) アンケートによる有用性の検討	中村 陽一(横浜市立みなと赤十字病院 アレルギーセンター), 河野 徹也, 磯崎 淳, 川野 豊, 三村 尚, 四宮 謙一, 足立 満, 森川 富昭, 森口 博基	日本呼吸器学会雑誌(1343-3490)49巻増刊 Page147(2011.03)	会議録
100	2012	成人喘息長期管理におけるテレメディスンの試み(第5報) アンケート調査による有用性の検討	遠藤 順治(横浜市立みなと赤十字病院 アレルギーセンター), 中村 陽一, 古家 正, 磯崎 淳, 菊池 信行, 河崎 勉, 田ノ上 雅彦, 稲瀬 直彦, 足立 満, 森川 富昭, 森口 博基, 河野 徹也	日本呼吸器学会誌(2186-5876)1巻増刊 Page316(2012.03)	会議録
101	2015	遠隔医療を用いた海外在留邦人支援 メンタルヘルス、睡眠時無呼吸症候群 遠隔医療を用いた海外在留邦人支援 Tele-Psychiatryによる海外・離島支援	小澤 寛樹(長崎大学 大学院医歯薬学総合研究科医療科学専攻展開医療科学講座精神神経科学)	日本遠隔医療学会雑誌(1880-800X)10巻2号 Page105(2014.09)	会議録
102	2015	遠隔医療を用いた海外在留邦人支援 メンタルヘルス、睡眠時無呼吸症候群 海外在留邦人における睡眠呼吸障害の現状と遠隔医療支援	吉嶺 裕之(春回会井上病院)	日本遠隔医療学会雑誌(1880-800X)10巻2号 Page106(2014.09)	会議録
103	2015	健康指標モニタリングに伴う遠隔地からの個別化指導法比較 テレビ電話利用と文書レポートによる所要時間と被験者アドヒアランス	本間 聡起(地域医療機能推進機構埼玉メディカルセンター 健康管理センター), 今村 晴彦, 中村 亨, 藤村 香央里, 伊藤 良浩, 前田 裕二, 金子 郁容	人間ドック(1880-1021)30巻2号 Page399(2015.07)	会議録
104	2011	パソコンによるテレビ電話と生体センサのデータ送信システムを組み合わせたテレケアシステムの実用実験	本間 聡起(慶応義塾大学 医学部先端医療科学・環境予防医学講座), 木下 博之, 溝口 環	日本遠隔医療学会雑誌(1880-800X)6巻2号 Page129-132(2010.09)	原著論文
105	2012	テレビ電話とバイタルモニタリングを組み合わせた遠隔健康指導による臨床指標の改善効果 栗原市住民を対象とした介入研究	本間 聡起(慶応義塾大学 医学部先端医療・環境情報科学講座), 今村 晴彦, 渡邊 茂道, 伊藤 良浩, 今野 理洋, 前田 裕二, 金子 郁容	日本遠隔医療学会雑誌(1880-800X)7巻2号 Page183-186(2011.10)	原著論文
106	2013	遠隔診察(テレケア)において適用可能な疾患の抽出と疾患別に必要なシステムの構成要素 慢性疾患と急性発症の疾患への対応の可否	本間 聡起(慶応義塾大学 医学部先端医療・環境情報科学講座), 溝口 環, 木下 博之	医療情報学(0289-8055)32巻4号 Page175-187(2012.09)	原著論文
107	2012	高齢者を見守る新しいシステム 在宅患者のための遠隔医療(Telemedicine)	本間 聡起(杏林大学 医学部総合医療学教室)	腎と透析(0385-2156)73巻3号 Page432-433(2012.09)	解説
108	2014	高齢慢性疾患患者を対象とした汎用性の高いシステムを用いた遠隔診療実験 システム構築と接続試験の結果	本間 聡起(杏林大学 医学部総合医療学), 渡邊 茂道, 藤村 香央里, 今野 理洋, 前田 裕二, 金子 郁容	日本遠隔医療学会雑誌(1880-800X)9巻2号 Page193-196(2013.10)	原著論文
109	2015	高齢者対象の汎用性の高いシステムを用いた遠隔診療実験 効率的運用法に関する考察	本間 聡起(杏林大学 医学部総合医療学), 中村 亨, 藤村 香央里, 伊藤 良浩, 前田 裕二	日本遠隔医療学会雑誌(1880-800X)10巻2号 Page205-208(2014.09)	原著論文
110	2013	健康指標のテレモニタリングに伴う指導介入法に関する比較研究 試験開始時の対象の背景因子と運用法についての中間報告	本間 聡起(杏林大学 医学部総合医療学), 今村 晴彦, 渡邊 茂道, 藤村 香央里, 今野 理洋, 前田 裕二, 金子 郁容	日本遠隔医療学会雑誌(1880-800X)8巻2号 Page146-149(2012.09)	原著論文
111	2013	健康指標のテレモニタリングに伴う個別化指導介入法に関する比較研究 レポート発行とテレビ電話による指導の臨床的指標の改善度	本間 聡起(杏林大学 医学部総合医療学), 今村 晴彦, 渡邊 茂道, 藤村 香央里, 今野 理洋, 前田 裕二, 金子 郁容	人間ドック(1880-1021)28巻2号 Page427(2013.07)	会議録
112	2015	健康指標のテレモニタリングに伴う個別化指導法に関する比較研究 テレビ電話指導法と文書レポート指導法の効率性	本間 聡起(杏林大学 医学部総合医療学), 今村 晴彦, 中村 亨, 藤村 香央里, 伊藤 良浩, 前田 裕二, 金子 郁容	医療情報学連合大会論文集(1347-8508)34回 Page484-487(2014.11)	会議録